野外調査の心得

〇大学スタッフによる事前の準備
*担当教官は必ず調査地を複数回訪れ，下見をしておく．
*事前に地元の警察署・役場に計画書（具体的計画，及び授業の概要なども含めたシ ラバス的なものを合わせて）を提出しておくと同時に，調査概要を説明する．道路などの状況もチェックしておく．1/5000 地図も入手できる．それらの資料は一部を学科 事務室に置いておく．
*ある程度優先させるルートの指示をする．重要なルートがアクセスが悪い場合，計画に関する示唆を行っておく．
*緊急支援用のザイル，毛布，食料，着替え，トランシーバーなど一式を学科で整備しておく．
*緊急時に支援を担当する教官を学科で決めておく．
*緊急時の対応に関するガイダンスを行う．学問的以外にも「自然への対応法」を経験させる事が好ましい．

〇調査前
*グループで調査する際は構成員の名簿を作成し，各自携帯すると共に学科事務室に一部置く．携帯電話，アパートおよび実家の連絡先を明記する．担当教官および緊急支援係の教官の連絡先，地元警察，金沢中警察署，役場の教育委員会・林務課，フィールドや宿から近い病院・医院などの連絡先も含める．
*事前に調査地へ赴き，地形，行動に要する時間，道路の状況，露頭の露出状況などを調べる．
*事前学習会で調べた注意事項などを含めて発表する．
*行動計画書を提出する．これを地元の役場や警察に提出する．
*緊急時に備えて携行品を準備する．
*救急箱などの借り出しを忘れない．
*現地の病院などの位置を調べておく．
*単独で調査を行う場合はとくに指導教官とよく相談する．
*単独で調査を行う場合，宿の人に予め調査概要を伝え，事故の場合の支援をお願いできるようにしておく．
*単独で調査を行う場合，事故と思われる場合，まず教室に連絡してもらえるよう宿の人に，お願いしておく．

〇調査期間中
*学生は当日の行動予定（調査ルート，調査に行く学生の名前，集合時間など）を 1/25000 地図上に落とし，宿の決まったところに残しておく．
*雨の日など調査が出来ないときは地元の役場や警察などに足を運び，調査の状況，今後の調査の運びを説明する．

*緊急支援用のザイル，毛布，食料，着替え，トランシーバーなどを宿に一式まとめて置いておく．
*林道の崖崩れなどの危険が感じられるとき（落石などが見られるとき）は付近で作業しない．大雨の時はそれより奥に入らない．
*雨の降った日の次の日，天気が悪くなる予報の時は沢に入らない．

〇沢での調査に関して
*沢には必ず２名以上で入る．
*沢にはいるときは万が一を想定して懐中電灯，非常食，湯沸かし用の小鍋，防寒具，雨具，呼び子（笛），爆竹などの携帯品を忘れずに持参する．トランシーバーがあると好ましい．
*沢調査中に強い雨が降ってきた場合は直ちに道路に上がる．急に増水することがある．
*沢調査中，弱い雨あるいは雨が降りそうな状況であっても水が濁り始めたら直ちに道路に上がる．上流で強い雨が降っている可能性がある．
*沢に入り，尾根を越えて別の沢にはいるという「尾根越え」はしない．

〇沢でのトラブル
*沢で迷ったら暗くなる前にアクセス道路に上がる．道路を辿って確認できる地点まで移動する．
*沢で暗くなった場合，アクセス道路がそばにある場合は懐中電灯を利用して速やかに上がる．
*沢で迷った場合で道路へのアクセスが遠い場合は，直ちに引き返し，確認できる地点まで出る（沢の分岐点など）．
*一人が動けないようなけがをした場合は，まず道路がある側の高まりに上がり，防寒具などを着用して助けを待つ．もう一人が道路に出て助けを呼ぶ．
*沢で動けなくなった場合，焚き火をする．特に寒くなってきた場合，服を乾かす，お湯を湧かすなどして体を暖める．虫避け効果もある．また，煙・臭いによって遠くから見つけやすくなる．

〇有事（学生が帰ってこないなど）の対応
*同行の学生は，まず数人は手分けして調査地周辺を捜索する．同時に大学に連絡する．連絡待機する学生数名（当事者班１名を含む）は必ず宿に残る．警察には大学から連絡するので，指示を待つこと．